

金環ショーにワクワク

松ヶ崎小児童
観測方法学ぶ

京都では2002年ぶりの観測が期待される金環日食についての特別授業が1日、京都市左京区の松ヶ崎小で行われた。京都学園大の岩崎恭輔特別教授(69)―惑星物理学―が観測方法などを語り、児童が神秘的な天文ショーに思いをはせた。

京都市内では5月21日午前7時半ごろ、金環日食が観測できると



岩崎特別教授の解説でスクリーンを眺め、金環日食への理解を深める児童たち(京都市左京区・松ヶ崎小)

が授業を受けた。岩崎特別教授は太陽と月、地球の位置の巡り合わせて、太陽がリング状に輝いて見える金環や、月が太陽を完

全に隠す皆既などの日食が起こる仕組みを解説。専用の眼鏡で観測すれば「今回は金環の一部に現れる月のでこぼこまで見えるかもしれない」と話した。

6年の今坂照太君(11)は「すごくスケールの大きな話。早起きして日の出から観測したい」と言葉を弾ませた。

(高元昭典)